

【伊達市ケーブルテレビ放送番組審議会議事録】

- ・日時 令和5年2月15日(水) 15:00～16:00
- ・場所 伊達ふれあいセンター(2階：映像研修室)
- ・出席者 委員8名 事務局：総務部長、課長、室長、係長
- ・欠席委員(2名)

【15:00 開会】

1 開会 進行：CATV室長

※10名中8名出席で、過半数委員の出席により審議会の成立宣言

2 会長あいさつ

- ・会長よりあいさつ

3 議題 (伊達市ケーブルテレビ放送番組審議会規則第5条第3項の規定により会長を議長とする)

(1) 番組の合評について

11/20 放送分「柱沢小学校児童 あんぽ柿振興センター見学事業」 13分

「い～ないだて」(伊達市公式YouTube) VOL.30「あんぽ工房みらい」 6分
の2本について視聴後にそれぞれ合評を行った。

<議長>

「こんにちはだて」「い～ないだて」の2つの作品を、あんぽ柿を中心にご覧いただきました。皆さんが感じたことをお聞かせいただけるとありがたいです。ご意見をお願いいたします。

<委員>

私が子どものころ、あんぽ柿は、のれんで作っていたように思いますが、この工場は7年前にできたそうですね。

<議長>

五十沢では、個人であんぽ柿を作っている方もいらっしゃいます。だからといって、全部がここに集まるわけではありません。

<事務局>

「い～ないだて」の最後の部分についてですが、生産地が高齢化し、後継者が不足しているため、産地形成を目指してJAが取り組み始めたという事例でした。五十沢では、個人の生産者もまだ残っていますし、保原では柱沢で作られています。

<委員>

すだれを用いたイメージが強いですが、現在では個人で作ると手間がかかり大変そうです。工場で集中的に作られているものは、さらに品質管理も徹底されていますよね。

<議長>

衛生的だと感じます。私も少し前まではあんぽ柿を作っていましたが、自分で食べることはありませんでした。

<委員>

一昨年、自分で作ってみたら、いつ収穫していいか分からず、真っ黒で硬いものになってしまいました。

<議長>

子供たちをセットで撮影した部分は、素晴らしいと思います。

<事務局>

農業振興係として、伊達市の特産物「夏秋きゅうり」や桃、そしてあんぽ柿をシリーズ化して取材依頼を受けています。伊達市の農産物を小学校でも紹介してもらっています。これらは情操教育の一環として、また子供たちに農業への関心を持ってもらうため、購買意欲を喚起することも期待しています。「い〜ないだて」は製造工程の紹介ですが、小学生が参加している部分が比較対象として重要だと考えています。

<委員>

伊達市の特産品として、何がありますか？

<事務局>

伊達市の特産品は、夏秋きゅうり、桃、そしてあんぽ柿です。

<委員>

きゅうりは経営的にも良さそうですね。あんぽ柿のほうは、残念ながら廃れてしまうイメージがあります。もちろん、失礼ながらですが。伊達市のあんぽ柿は生産量は増えていますか？

<事務局>

90 トンと言われていますが、若干減少傾向にあるので、産地形成のために JA が一生懸命に取り組んでいると思います。なお、取れ年と裏年がありますので、正確な数字は出ていません。

<委員>子供たちはあんぽ柿については、あまり知らないのではないのでしょうか。

<議長>

撮影時に子供たちを使うのは、とてもよいと思います。

<事務局>

農業振興の方でも、私たちの方でも、うまく撮影できたと思います。

<委員>

あんぽ柿振興センターは、毎年取材を受け入れているのでしょうか？ それとも、たまたま柱沢小学校だったのでしょうか？

<事務局>

地場産品や第一次産業は、市の収益源であり、引き続きアピールしていくべきだと考えています。今年、初めて取材を実施しました。

<委員>

町場の小学校の方がいいのではないのでしょうか。あんぽ柿を知らない生徒が多いと思います。

<事務局>

柱沢小学校の生徒は 13 人です。その生徒たちが来たのではないかなと思います。もちろん、もっといたかもしれません。全校生徒だけでなく、3 年生だけだったりするかもしれません。

<議長>

番組の戦略があるならば、例えば、ナスならこういう風にやるとか、発展性があるのではないのでしょうか。

<事務局>

きゅうりに関しては、以前取材を行いました。その時は大田小学校だったように記憶しています。

<委員>

農家は左うちわという言葉をよく聞きますが、それはあまり当てはまらないのでしょうか。

<事務局>

「夏秋きゅうり」については、その出荷額が全国一位となっている商品です。個人で作っているきゅうりは、長さが異なることがあり、特に朝晩は選定が大変です。個人が出荷したものを JA に持って行くと、ベルトコンベヤーできゅうりを流し選定作業を行ってくれます。JA の作業員が詰めて、それを出荷してくれます。

<委員>

伊達のあんぼ柿、私はまだ食べたことがありません。福島市は納豆生産日本一を誇っていますね。伊達市も何か特産物があるといいですね。

<議長>

あんぼ柿の収穫は、機械ではできません。腰が曲がってしまうとなかなか難しい仕事です。

<委員>

「こんにちはだて」、「い〜ないだて」について、今後の展開はどう考えていますか? 「こんにちはだて」は、字幕が大きくて良いと感じました。YouTube の方は字幕が小さく、年配の方には見づらいかもしれません。各番組にそれぞれ狙いがあるので、一概には言えませんが、取材の意図は、農家の後継者について考えることだと思います。農家の募集や、働きたい人が増えるような周知をしたら良いと思います。

<議長>

すみわけについては、どのようにお考えでしょうか?

<事務局>

すみわけの話になりますが、ケーブルテレビを少し方向転換させていきたいと思います。ケーブルテレビは、従来のテレビ番組のような作りから、より YouTube に近い形の番組作りにしようと考えています。つまり、両方のメリットを取り入れていきたいということです。今日は初回ということで、比較してご覧いただきましたが、数回にわたる視聴をお願いしながらこの新しい形を進めていきたいと思います。伊達市民の方にはもちろんですが、伊達市以外の方々にもご覧いただき、伊達市の魅力を知っていただきたいです。本日は、皆様からのご意見をいただきたいと思います。

<委員>

事務局は悩んでいるのだろうと思います。

<議長>

結局のところ、だてテレビを縮小していく形ということですね。

<事務局>

30分番組の形から離れて、よりYouTubeのような形にしていきたいと思っています。視聴者の立場から考えて、どの番組を視聴するか視聴者が選べるようにしたいです。何を伝えたいのかが不明確だと感じています。どちらの形式で作るにせよ、その部分が重要だと思います。

<委員>

私は、「こんにちはだて」が面白いと感じました。あんぽ柿について学びたいと思ったら「い〜ないだて」が良いと思います。生産工程を詳しく説明するあたりは、手に取るように理解できました。伊達市ケーブルテレビとして見る視点では、伊達市の小学生に関する内容の方が、多くの人々の興味を引くと思います。子どもならではの質問があったり、視聴するのが楽しかったです。また、センター長が後継者問題に触れていましたが、我が家も農家なのでうなずける部分もありました。どの産業でも担い手問題というのは当然あると思いますが、子どもたちが次に担当するといった内容には説得力があると感じました。

<事務局>

「アナウンサーがいて、センター長もいて、子どもたちが回答した」というのが良いとのことですね。

<委員>

単調ではなく、その方が視聴しやすいというか、視聴したいと感じます。

<委員>

どちらもそれぞれに特徴があり、良いと感じました。ケーブルテレビの視聴者層と、YouTubeの視聴者層はどのように違うのかと思いながら視聴しました。ケーブルテレビは地域向けで、一方のYouTubeは若い人々を対象とした全国向けのコンテンツですね。どちらも食べ物が主題で、「食べて美味しい」「食べるとふわふわする」など、食べている場面があると良いと思います。「食べて美味しい」という体験を伝えて欲しいです。

<事務局>

あんぽ柿については、放射線量測定後でなければ食べられないという事情があります。キュウリなどであれば、味噌をつけて食べることができますが、今回はそこでは食べることができませんでした。貴重なご意見として頂戴したいと思います。

<議長>

1個、1個、測定器にかけるのですか？

<事務局>

全数調査ということで、全てに対して検査を行っています。

<委員>

つまり、お店で売っている全ての商品ということですね？

<事務局>

はい、その通りです。取材後だと思いますが、柱沢小学校の生徒たちは食べていると考えられます。線量はあそこで測定しているので、その場で食べたのかどうか。

<議長>

その場で「美味しい」と実感できると良いですね。

<事務局>

やはり、映像的にはその場で食べていないと寂しいです。

<委員>

「こんにちはだて」の方は説明者と見学者がいて、説明者が背中を向けているのが気になりました。子どもたちが出ていて、その表情が素晴らしかったです。ただ、もっとアップにすると良かったかもしれません。YouTube 版はテンポが良く、アナウンスも明快で見やすかったです。ただ、場面転換でボヤッとフェードアウトする部分には、少し違和感を覚えました。様々な観点から視聴できる素材だと思います。

<委員>

ホテルでも放送できる素材だと良いですね。

<議長>

ホテルでは常に放送しているので、伊達市の PR になると良いですね。

<委員>

コロナの影響もあり、都会から地方への移住があります。伊達市に新規に農業を始めた人がいるのかは存じ上げませんが、新規農業者が伊達市で成功しているというような PR 素材を作ってほしいです。子どもに関するものも良いですが、そういった視点からの制作を希望します。福島県には移住者が多いという認識ですが、県北までの具体的な人数は分かりません。私たちは農業を営んでいて、こういった生活を送っていますという内容を映像で伝えてほしいです。

また、他県でもワイナリーを営んでいる方がいます。

<事務局>

以前、市長が移住した新規就農者と座談会を行った際の様子を YouTube にアップされていたと思います。

<委員>

新規就農の方々は何を作っているのですか。やはりキュウリでしょうか。

<事務局>

桃を生産している方だったと思います。伊達の伏黒か箱崎に住んでいる若いご夫婦だったと記憶しています。座談会の際には、二人ともご参加いただいていた。ほかにもキュウリを作っている個人の方もいました。

新規に農業を始め、収益を上げやすいとされているのは野菜類です。伊達市では新規就農を支援する政策を充実させています。実際に現場で汗を流す場面などが映像として適しているかもしれませんが、今回は座談会形式でした。

柿を生産している場面など、そういった素材で PR 映像を作ることを提案いただきました。移住や就労促進の観点からも、引き続きアピールできる内容だと思います。

<委員>

「こんにちはだて」の映像は非常によかったです。震災を経験し、その事実を理解して見学に来た学生たちの姿を映したものです。

本来は、あんぽ柿の品質の良さは、吾妻おろし、半田おろしがあり、柿の専門家に言わせれば、工房よりも、自宅の方で硫黄燻蒸するのが美味しいとのこと。

今回の番組も素晴らしかったと思います。できることであれば、都会の子どもたちに体験学習させた方が良いと感じました。

映像的には、YouTubeの方がきれいで、「こんにちはだて」の方は動きが多く、ピントが合っていないように見えました。これは恐らくカメラマンの持ち方によるものだと思います。全体的な流れは良かったです。特に YouTubeの方は非常にまとまっていました。ただ、こういったメッセージを伝えたいのかが十分に伝わってこなかったと感じました。

<委員>

私も「こんにちはだて」は地元の皆さん向けの番組で、一方 YouTube は全国向けの紹介・説明番組という違いがあったと思います。また、干し柿に関する絵本があり、それに関連する朗読会が梁川美術館で開催されていました。そういった内容も紹介されていれば楽しかったと思います。

<委員>

先程皆さんが言及していた映像の目的についてですが、柱沢小学校の見学をメインに据えるとした場合、センター長さんが登場するシーンで干し柿の説明のテロップがあると良いと

感じました。また、「柱沢小の児童」を主役として描くなら、もっと児童たちの表情を引き立てるシーンが欲しかったです。「こんにちはだて」と「い～ないだて」は、同じシーズンに撮影されているのでしょうか？

<事務局>

あんぽ柿に関してはシーズンにあわせて撮影依頼を受けています。YouTube は全国に向けて、「このように作っています」という内容を伝えています。撮影時期はおそらく同じだと思います。

<委員>

「こんにちはだて」の最後に QR コードを入れて、「あんぽ柿の工程は『い～ないだて』でご覧いただけます」と告知すると良いと思います。反対に、「い～ないだて」で「地元の小学生の様子はこちらでご覧いただけます」と案内すると、相乗効果が上がるのではないかと思います。

<議長>

一通り皆さまからの意見を伺いましたが、何か他にご意見はありませんか。

委員から一つ質問がありましたが、アナウンスは外部の専門家に依頼しているのですか？

<事務局>

はい、プロの方に依頼しております。

<議長>

承知しました。以上をもって、終了いたします。

4 その他

5 閉会 副会長より閉会

【16：00 終了】